

笹尾根（槇寄山～三国山）

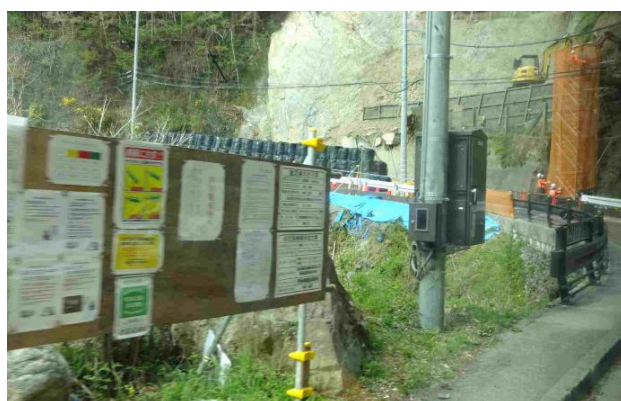
山行日：2025. 4. 18 メンバー：単独

天候：晴れ

コース：武蔵五日市駅/7:21 → 仲ノ平/8:20 → 槇寄山/10:00 → 丸山/11:25 → 土俵岳/12:20 → 浅間峠/13:20 → 熊倉山/14:20 → 三国山/14:55 → 井戸 BS/16:05

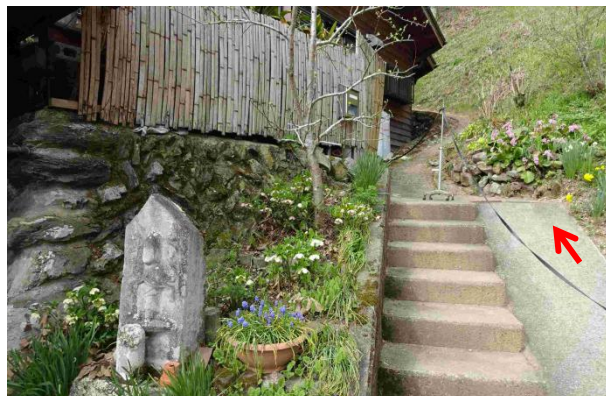
笹尾根は4回目。前回の2023.3は電車トラブルでバスの出発が90分遅れ結局井戸BSから上野原まで歩くことになった。先日まで終点数馬手前の道路崩落で通行止めがあり、ようやくバスの運行をTELで確認して急遽来ることにした。定刻に出たバスは秋川沿いの狭い谷あいを登って行く。単独行者ハイカー4名、村役場職員、小学校先生等？を乗せ、途中から小学生8名ほどが乗車しその後次々に下車し、最後に数馬手前の仲ノ平で降りる。

土砂崩落工事現場



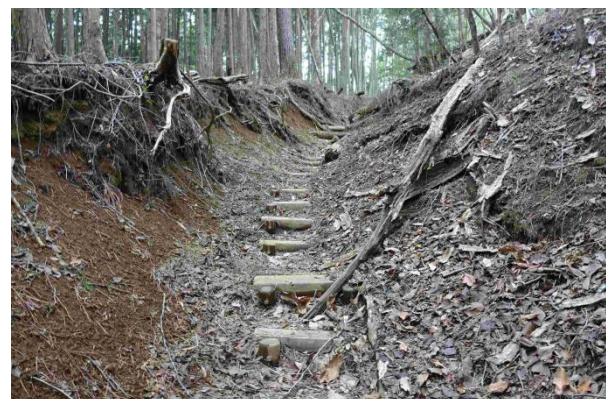
民家脇のスロープが登山者専用道

階段は使用不可



ようやく道標、単独行にて安全のため熊鈴着用する

よく掘りこまれた登山道が人馬の通行の歴史を感じる



歩き始めて1時間、前方に三頭山からの笹尾根の稜線が見えてきた



90分で笹尾根槇寄山着

単独行者が休憩していた

富士山がかすかに見えていた



これよりアップダウンを繰り返しながら南東方向へ15カ所の峠を通過してゆく 最も往來のあった数馬峠



緩やかにジグザグに馬の道を降って、吹(うすしき)峠。 北の武州檜原村、数馬から南の甲州旧西原村に抜ける峠路は郡内峠と呼ばれ、西原地区(坪山の登山口集落)では数馬峠の名がある。甲州側鶴川沿いの人が峠越えをして拓きその後、川下へ入里、川乗、柏木野と拓いている。よって数馬には旧西原村との縁戚関係が多い。この峠は数馬にとって嫁取り峠でもある。花嫁御寮が馬の背に小荷駄を振り分た数頭の馬列が目に見え、参考：文献より



無人の丸山山頂　　ここでようやく座ってランチタイム



一般登山道外のピークを踏んで行く



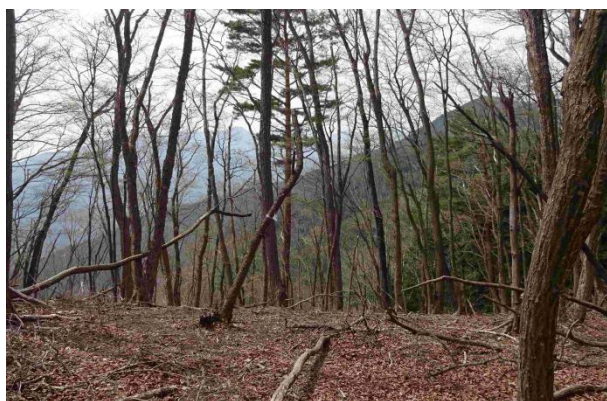
檜原側は常に明るく拓けた広葉樹林帯



小綱(こゆずり)峠



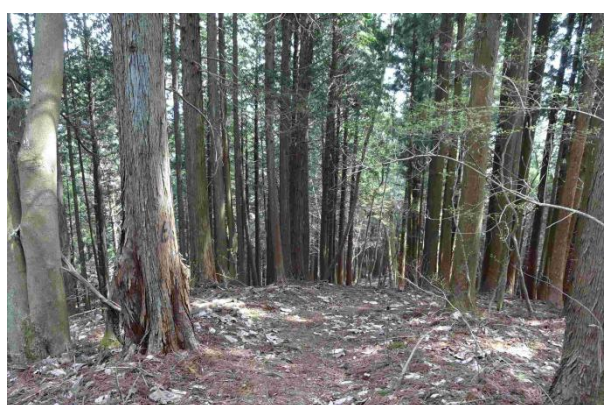
次のピークが見えてきた　　落ち葉をかき分けて降るのでスパッツを着用する　　土俵岳着



拓けたところから三頭山～御前山がよく見えていた



急降下して行く



笹尾根(三頭山〜高尾山)稜線で唯一の貴重な水場がある



日原峠



またアップダウンして登るピークが見えるが降って



登って



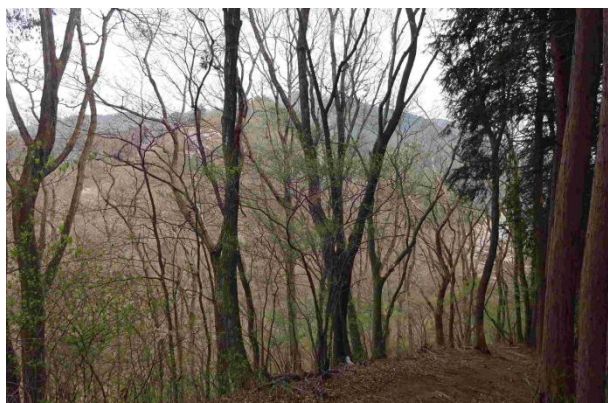
稜線歩きも3時間経過した13時過ぎ、ようやく熊倉山〜生藤山の山々が見えてきたようだ。このエリアの稜線は左檜原側は広葉樹林、右上野原側は植林帯とはっきりと分かれている



降り立ったところが交通の要衝、広場となっている浅間峠。三頭山〜高尾山 30km をトレラン以外で縦走するとなるとこの東屋でピバークする寝場所となる



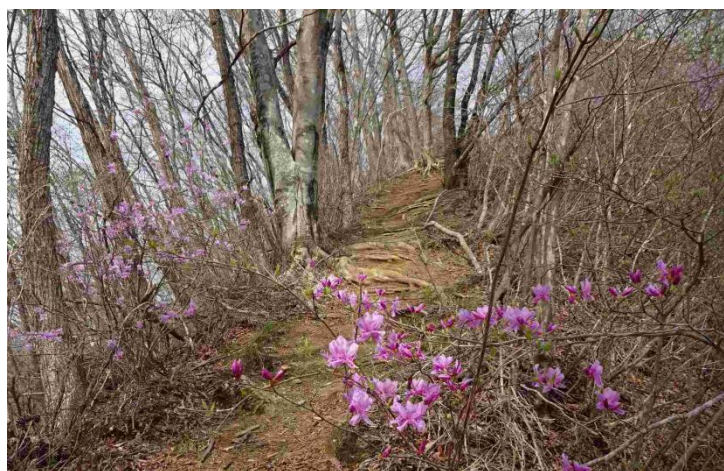
最後のピーク群が近くなってきた



熊倉山山頂手前の井戸 BS へのショートカットルート入口



熊倉山山頂直下で本日初めて見る花、ピンクのツツジ



熊倉山 14:20 井戸バス停時刻を確認しまだ充分時間に余裕があるので三国山経由で下山することに



笹原が出てきたがよく見ると見事に草刈りしたように鹿に食いちぎられている。登山道両側がハッキリと！



軍刀利神社本社 2011 年山行時は笹が生い茂っていた笹尾根だったが鹿の食害で見る影もなし



登り返して最後のピーク三国山 水源林境界杭(1 本 1 5 k)を担ぎ上げて来た関係者に遭遇し撮影を依頼



井戸 BS へ下山開始 サクラ並木群一帯ががテング巣病に感染し花が咲いていないが見上げると一部けなげに咲いていた枝もあった。



井戸バス停分岐 開けたところに軍刀利神社本社への巻いて行くショートカット女坂一般登山道分岐



奥の院手前の沢に降り立つ 青私標分岐が軍刀利神社本社へ直登する男坂バリルート(荒れている急登)



15:15 発のバスに向けて急ぎ足

途中右に要害山(尾根先端の1本杉が見える)と鉄塔がある聖武連山が



既にバスは来ていたが15分前着

いまさらながら上野原駅は4Fビルの高さ上にある

